

# 三河の昆虫

No. 6 1974年3月

〒448 刈谷市井ヶ谷町  
愛知教育大学昆虫研究室内  
三河昆虫研究会 発行  
第一プリント社 印刷  
☎ ◀564▶ ② 4463

## 東三河の糞虫

伴 憲 隆

私は数年ほど前から糞虫に興味をもち、東三河を中心にして長野県、奈良県などに採集に出掛いています。特に奈良県の奈良公園には、まだ採集できませんが、ヤマトエンマをはじめ、同地特産のヒメマグソ、オビモンマグソなどを産し、糞虫を愛するものにとってかけがえのない採集地になっています。この東三河でも、その分布や生態上興味のあるミツノエンマコガネをはじめ、ムネアカセンチ、ゴホンダイコクなども時々採集されているので、これ等の採集データをはじめ、その他の種類についても一応まとめてみたいと思います。

末尾ながら、日頃お世話になっている大平仁夫博士、山崎隆弘氏、松野更一氏に厚くお礼申し上げます。

### センチコガネ科 (GEOTRUPIDAE)

#### (1) センチコガネ

*Geotrupes laevistriatus* Motschulsky

宝飯郡小坂井町, 30. VII. 1972.

光沢の乏しい黒紫色の個体が多く、平地の山寄りの地方で採集されます。

#### (2) オオセンチコガネ

*Geotrupes auratus* Motschulsky

本宮山 (789 米), 9. IV. 1966.

これは、本宮山の山頂で飛行中の1個体を山崎隆弘氏が採集されたもので、原型の金赤色をしたものです。

#### (3) ムネアカセンチコガネ

*Boibocerosoma nigroplagiatum* Waterhouse

岡崎, 28. IX. 1972.

まれに灯火により採集されます。

### コガネムシ科 (SCARABAEIDAE)

#### (4) ゴホンダイコク

*Copris acutidens* Motschulsky

作手村, 27. VII. 1970.

昔は本宮山で採集されたそうですが、最近では記録がなく、私はそれより北にある作手村の牧場で得ています。

#### (5) マルエンマコガネ

*Onthophagus viduus* Harold

作手村, 3. VIII. 1970.

#### (6) コブマルエンマコガネ

*Onthophagus atripennis* Waterhouse

蒲郡, 30. V. 1972.

早春より各地に普通に得られます。灯火にもよく飛来します。

- (7) カドマルエンマコガネ

*Onthophagus lenzii* Harold

作手村, 3. VIII. 1970.

最も普通に得られます。

- (8) クロマルエンマコガネ

*Onthophagus ater* Waterhouse

額田郡大幡, 20. IV. 1972.

普通に得られます。

- (9) ミツノエンマコガネ

*Onthophagus tricornis* Wiedemann

蒲郡, 30. V. 1972.

本種の分布や生態など特異なもので、東三河では主に平地の海岸寄りで灯火により多く採集されます。

- (10) オオフタホシマグソコガネ

*Aphodius elegans* Allibert

額田郡大幡, 14. V. 1966.

同地方では少ない種です。

- (11) オオマグソコガネ

*Aphodius haroldianus* Balthasar

作手村, 26. VI. 1970.

普通に得られます。

- (12) コマグソコガネ

*Aphodius pusillus* Herbst var. *rufangulus*

Waterhouse

額田郡大幡, 31. V. 1972.

- (13) セマダラマグソコガネ

*Aphodius obsoleteguttatus* Waterhouse

額田郡大幡, 20. IV. 1972.

今のところあまり記録のない種です。

- (14) マグソコガネ

*Aphodius rectus* Motschulsky

作手村, 10. IV. 1972.

各地に広く分布し普通です。f. *typica* と ab. *biformis* との比は、季節により多少異なるが、約5対1です。

- (15) ヨツボシマグソコガネ

*Aphodius sordidus* Fabricius

蒲郡, 28. VI. 1971.

この地方では余り多くない種のように、私は灯火に飛来したものを採集しています。

- (16) キバネマグソコガネ

*Aphodius languidulus* Schmidt

作手村, 15. VI. 1972.

比較的少ない種のようにです。

- (17) ウスイロマグソコガネ

*Aphodius sublimbatus* Motschulsky

作手村, 3. VIII. 1970.

個体数はあまり多くないようです。

- (18) オビマグソコガネ

*Aphodius uniplagiatus* Waterhouse

額田郡大幡, 31. V. 1972.

採集場所によって、季節的ですが比較的多く得られます。

以上、18種を記録しましたが、まだ種名のわからない個体が2・3あります。それらも、また次回に発表したいと思います。

#### 【参考文献】

- (1) 原色昆虫大図鑑, II (甲虫篇), 北隆館.
- (2) 日本産コガネムシ類解説(食糞群). 益本仁雄.
- (3) 日本産コガネムシ類目録. 野村鎮.

## 豊根村で採集される ミヤマチャバネセセリについて

村松 課葉沙

ミヤマチャバネセセリは、一般に山地性の種で、そのため気象的にも地形的にも適しているためか、豊根村ではよく採集できます。

今までの採集記録は次のようです。

4-V-1967(1♂); 5-VIII-1967(1♀)  
; 9-VIII-1968(1♂); 25-VIII-1971(1♀)  
; 18-IV-1972(1♂); 1-VIII-1972(1♀)  
; 5-V-1973(1♂)。

この種はイチモンジセセリとよく似ていて、飛翔中を見分けることは困難で、見過してしまうことが多い。豊根地方では晩秋に多く発生し、イチモンジセセリだと思って採集してみると本種であることが多い。

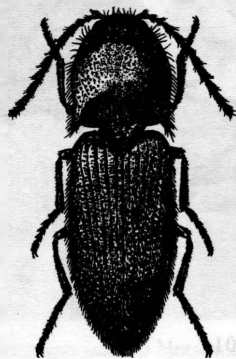
## 愛知県から記載された2種のコメツキムシ

大平 仁夫

愛知県から現在120種ほどのコメツキムシが採集されているが、この中に、愛知県が新種の基産地になっている2種があるので、ここに紹介しておく。

### 1. ホングウチビクロコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *horguanus* Ohira, 1962 (第1図)

この種は、1954年5月16日に、本宮山で私が採集した唯一頭の雄標本にもとづいて記載したもので、その後和歌山県から得られたが、愛知県からは今日まで誰も得ていない珍種である。



第1図

今その頃の記憶をたどってみても、本宮山のどこで採ったのかよく覚えていない。おそらく打網で得たのではないかと思われる。時期がかなり早いことも注目すべきことで、本年は2頭目を是非採集したいものだと思っている。しかし、本宮山は最近になって自然がひどく荒され観光地化しているので、虫の数も当時に比べれば比較にならないほど少なくなっている。あるいはもう得られないのではないかと思われる。

体長5mmで体は栗色をしていて、触角と脚は茶褐色である。図をごらんになればよくわかるように、特徴のある種なので、もし本宮山に採集に行かれた方は注意して下さい。

### 2. ギフミズギワコメツキ

*Migiwa gifuensis* Ohira, 1973 (第2図)

この種は、岡崎市の矢作川の河岸で、1960年6月5日に採集した標本の中から見出したもので、最初はジュウジミズギワコメツキの黒化型と想っていた。その後、岐阜の金華山(おそらく長良川の河岸)でも採集されていることがわかった。岡崎からのものは残念ながら雄個体が見つからな

ったので、岐阜のがホロタイプの基産地になっていて、岡崎のはパラタイプの基産地になったわけであるが、おそらく平地の大きな川の河岸には広く分布しているものと思われる。

体長は2.5mmくらいで、黒色、光沢を欠く種で、触角の基部2節と脚は黄褐色をしている。また、体が扁平ではなく、前胸背板の後縁角が短いのが特徴である。一般にミズギワコメツキの仲間は、成虫の発生期間が短いので、この種の出現も6月上旬から中旬頃までのわ



第2図

ずかな間と思われる。その頃、河岸に群生している笹蝶などを打網すると、他のミズギワコメツキの仲間と落ちてきたように記憶している。

## 私 と 昆 虫

### —その5—

照井正康

私が昆虫採集を始めたのは8年ほど前です。町でリュックを背負い、ネットを持って歩いていた山崎隆弘氏の弟さんに出合ったときからです。私はその日、さっそく蝶の標本をみせてもらい、一目みた瞬間に私も昆虫標本を作ってみたくなり、急いで採集用具をそろえました。

さて、私が昆虫採集を始めた頃は、もう夢中で、ほとんど毎日曜日(小雨決行)はもちろん、冬でも正月休みでも朽木をあさり石をおこし、虫の姿を追ったものでした。始めて間もない頃、美ヶ原高原や八ヶ岳等の採集で、広い野原で蝶を追い廻して走り続けたことなど未だに忘れません。

その頃は、家から歩いて近くの採集地まで出掛けたものですが、今は車で目的地まで行けますので非常に便利になりました。しかし、前のように歩いて採集に出掛けたときの方が、採集量も多くて印象も深いように思っています。

今までは手当たり次第に虫を採集していましたが、これからは限ったものに力を入れ、より深くやろうと思うのですが、仲々ふんぎりがつかなくて、私自身一つの壁につき当たったように思います。幸い、身近に熱心な方がおられるので、その方達に

見習って今後やって行きたいと思います。

私は、一生昆虫とつき合っていきたいと思っていますので、会員の皆様のご指導も心からお願いいたします。

